ＯＦＣ、ＥＲＣ　←　在１Ｆ　横田

３月２２日　１０：３０　１Ｆ緊対室入り（横田、秋本）

○３号機における対応状況

消防庁の高所作業車による放水スケジュールが、４号機のコンクリートポンプ車「キリン」による放水スケジュールと重複しないよう調整の上、１４：００～１５：００で実施したことを確認。

○４号機における対応状況

使用済燃料プールに、コンクリートポンプ車「キリン」で海水を注入。注入状況を現場で動画撮影したものを、プレス会見時に使用予定との連絡あり。また、注入中に水蒸気が多く立っており、注入水が確実にプール内に入っていることによる現象の一つではとの議論を確認（１７：００から３時間連続注入を実施）。

○１号機における対応状況

吉田所長から本店に対して、より迂回の少ない配管で通水する手段の可能性を検討中との相談あり。明日以降、実現可能性をよく検討する予定であることを確認。

○ＯＦＣ会議のコメントとして、データに対する意味づけ（健康上の影響の有無等）をきちんとコメントするようにとの情報共有あり。

※明日午前中に、１，２号機中操のデータ取りに同行予定。

ＯＦＣ総括班、ＥＲＣ総括班　←　在１Ｆ　横田

３月２３日（水）分

○　４号機における対応状況

・午前中に、コンクリートポンプ車「キリン」を用いて使用済燃料プールに放水を実施。放水直後から水蒸気が出ていることから、注水による冷却効果が出ていると考えられるとの議論を確認している。

○　３号機における対応状況

・冷却のため１６時３０分から消防庁による放水を行う予定だったが、１６時２０分頃より３号機から黒煙が上り始めたため、作業者は一時退避。その後煙が収まらないことから作業は中断したままとなっている。

○　その他

・午前１０時より、１，２号機の中央制御室に行き、中央制御室の状況および事業者による原子炉パラメータのチェック状況を確認。中央制御室に至るまでの外部の線量は最高１２ミリシーベルトと高線量になっているが、中央制御室内は建屋の遮へい効果により約０．０６ミリシーベルトとなっていた。（合計被ばく線量＝０．３４ミリシーベルト）

・２号機に対する今後の対応方針については、現在はプラントの状態が安定していることから、まずは現状を維持することとし、その他の号機の安定化に資源を集中させることとしていることを、吉田発電所長及び[redacted]より聞き取り確認。

・１６時２０分頃から発生した３号機の発煙について、ライブカメラによる状況及び事業者による議論状況をＥＲＣに情報提供。

・「サイト内で１時間あたり５００ミリシーベルトの線量が出ていた」との話について、放射線管理関係者に確認したところ、３月１８日のサイト内調査時に、社員の線量計が５分間で５０ミリシーベルトの線量を一時的に記録したことが原因であることを確認。なお、その後の確認で、これまでの最大線量は３月１９日に３号機建屋の山側で３００ミリシーベルトが記録されているが、現在は１５０ミリシーベルトに低下していることも確認している。

・本店及びサイト間のテレビ会議で、原子炉の冷却方法について各号機の状況に合わせた代替手段の検討と実施可能性について本店側から提案があったため、サイト側のカウンターパートを決めて実現可能性について詳細を検討していることを確認。

※訂正：昨日の報告で緊対室の線量を間違えて小さく連絡していました。正しくは「鉛毛シート養生・清掃により、0.06mSv/h(60μSv/h)→0.002～0.006mSv/h(2～6μSv/h)に低下」です。

ＯＦＣ総括班（代　広報班）、ＥＲＣ総括班（代　広報班）　←　在１Ｆ　横田

３月２４日（木）分

○本日の対応は、コンクリートポンプ車「キリン」や消防庁の高所放水車による外部からの注水ではなく、プラントが元来有する系統の注入ラインからの注水に集中して対応する方針としていたが、その後、「キリン」の放水準備が可能になったことから、４号機の使用済燃料プールに対する「キリン」の放水を１４：３６に実施し、１７：３０に停止していることを確認。

○５号機における対応状況

・残留熱除去系の海水ポンプトリップにより、使用済燃料共用プールの水温が１００℃を超える可能性があるため、冷温停止を維持できるよう同系統の修理に集中して対応した結果、プール温度が１００℃になる前に停止時冷却系モードで運転再開に成功したことを確認。

○その他

・９時頃（その後の確認により６～７時頃に修正）より、１～４号機の上部から白い水蒸気が立ち上がっており、直後の線量上昇傾向と関係があるのか、事業者の検討状況を確認（１号機は瓦礫で埋め尽くされているため、水蒸気の発生場所と外部に立ち上がっている場所が異なる可能性が高い）。

→その後、緊対室周辺の線量が上昇し、緊対室内の線量も一時的に１０μSv/hに上昇しているが、再び落ち着いている。

・２号機については、プラントの状態が安定している現状維持を優先とし、他号機の対応に資源を集中する方針が継続していることを確認。ただし、高線量となっている区域の修復は、今後クリアする必要がある課題として検討されている。

・緊対室内でも放射性の微粒子を吸入する可能性があることから、これまでも防塵用のサージマスク着用を奨励していたが、被ばく量を少しでも軽減させるため、４０歳未満までの服用としていた安定ヨウ素剤の服用を、４０歳以上にも拡大する方針になったことを確認（医師より、１日１錠の服用であれば問題ない旨の説明あり）。

・３号機のタービン建屋の１階及び地下１階で作業をしていた協力企業社員が床面の水たまりから約１８０mSv の被ばくを受ける事象があり、ＯＦＣ医療班とも相談の上、福島県立医大に搬送の手続きを行っていることを確認。

・５、６号機の使用済燃料共用プールについて、異常事態連絡１５１報に当初記載された電源供給時刻が、緊対室内で情報共有された内容と異なっていることに気づいたため、担当者に確認の上で正しい時刻に修正されたことを確認。

ＯＦＣ総括班（代　広報班）、ＥＲＣ総括班（代　広報班）　←　在１Ｆ　横田

３月２５日（金）分

（放射線管理に関する確認状況）

○放射線管理の徹底について、午前４時から全体会議を開催。事業者においては、事前サーベイで作業環境を把握し、作業環境、現場の状況、作業の内容を的確に作業員に伝えること、作業員においては、作業環境が予定と異なる場合は作業を中止して指示を仰ぐこと、個人線量計の警報が鳴った場合は直ちに作業を中断して退域すること等により、被ばくの低減・放射線管理の徹底として方針を決定。本日の作業開始前に作業員に説明し、実行に移すことを確認。

○３号機建屋内の水たまりについて、その出所が炉内からという議論が現場で行われているかというＥＲＣからの問い合わせに対して、そのような議論は行われていない旨を返答。また、３号機のタービン建屋と原子炉建屋の通行口に関するＥＲＣからの問い合わせに対して、１階にある２重扉しかない旨を返答。

○放射線管理の状況については、８０～１００ｍＳｖが１７名、１００ｍＳｖ超が１７名いることを把握しているリストを毎日更新するとともに、該当者には注意喚起を行い、受診を勧めていることを確認（個人情報が含まれるので、リストの添付はしません）。

（使用済燃料プールに関する確認状況）

○消防庁による３号機使用済燃料プールへの放水は１３時から１６時まで実施。それ以外の２，４号機使用済燃料プールには系統から海水注入を行う予定であり、２号機プールには１０：３０から１２：１９まで注入を実施したことを確認。

○２号機使用済燃料プールへの注入量毎分３５０リットルに比べて、同じポンプを用いた４号機使用済燃料プールへの注入について流量計を確認したところ、毎分１０リットル程度しかないことが判明。爆発によりパイプが閉塞している可能性があるとの議論を確認している（パイプが破断したのであれば抵抗はなくなるので、その可能性は小さいとの議論）。このため、４号機に対して「キリン」を動かし、１９：０５より注入を実施していることを確認。

（原子炉に関する確認状況）

○１～３号機の各原子炉への淡水注水は、本店からの提案による淡水注入ラインの準備が進み、準備が済み次第切り替える予定であり、１号機は１５：３７に淡水注入に切り替え、毎分１２０リットルの流量で注入していること、３号機については、１８：０２に淡水注入に切り替え、毎分２４０リットルの流量で注入していることを確認。

○２号機原子炉への淡水注入については、タンク内にホウ酸は投入したが、１８時過ぎの時点において、ろ過水タンクに淡水が足りないため、十分な流量が出ないことが判明。淡水は今後補充されるが、夜の作業は安全性を担保できないことから、２号機の淡水注入は明日明るくなってから改めて対応する方針とすることを本店に確認し了承されていることを確認。

ＯＦＣ総括班（代　広報班）、ＥＲＣ総括班（代　広報班）　←　在１Ｆ　横田

３月２６日（土）分

（全体方針に関する確認状況）

○朝７時からの所内朝会議において、本日の予定はタービン建屋内の水抜きが主な作業であること、系統からの淡水の供給を継続することを確認。また、４号機に注水する「キリン」は原則毎日３時間注水を続けること、１号機に使用する「大キリン」、３号機に使用する「シマウマ」の運搬状況について情報の共有が行われていることを確認。

→４号機の「キリン」については、系統からの淡水供給のみとし、変化がなければ本日は動かさないこととなった。「シマウマ」は１４：３０に到着。明日以降の使用に備えた準備を進める。

（水たまりの処理に関する確認状況）

○朝９時からの全体会議で、東電本店よりタービン建屋地下の浸水状況について東電本店見解の説明あり。ただし、まだサイト側と調整していないので、今後現場の状況をよく把握しながらプラントの長期的冷却手段を決めていく必要があると検討していることを確認。

○５，６号機の地下にも水が入っており、これを処理しないと現在維持している冷却機能に影響が出る可能性が高いので、早急に検討を進める方針であることを確認。

○全体会議終了後、２号機タービン建屋地下の水たまり表面の線量が昨日より上昇（４００→７００ｍＳｖ）していること、３号機タービン建屋地下の水たまり表面の線量は、１Ｓｖ／ｈ（１０００ｍＳｖ／ｈ）以上で、接近は要注意との注意喚起が行われていることを確認（一回の線量調査でおよそ２０ｍＳｖ程度の被ばくとのこと）。

○１号機のタービン建屋から原子炉建屋に入る二重扉の前から原子炉建屋に向かって線量を計測したところ、８００ｍＳｖ／ｈの線量が計測されているとの状況を確認。

（放射線管理に関する確認状況）

○被ばく量１００ｍＳｖ超過が新たに１名追加されたとの情報共有あり。作業者の被ばくに応じた臨時検診の受診方法について、より作業の実態に即した対応に変更可能かについて、厚労省と調整中であることを確認。

○放射線管理の徹底について事業者の取り組みを聴取したところ、これまでの取り組みに加えて、各号機における水たまりマップを作成し、協力企業からの情報も含めて水たまりの分布や線量測定結果を更新することで高線量地域の情報共有を行い、被ばくを低減させるための取り組みを行っていることを確認。

ＯＦＣ総括班（代　広報班）、ＥＲＣ総括班（代　広報班）　←　在１Ｆ　木原

３月２７日（日）分

（全体方針に関する確認状況）

○ 原子炉/使用済み燃料プールへの冷却準備状況について

原子炉へのポンプ車による注水は、Ｐ車から仮設 M/D Ｐへ切替予定（１～３号機）であることを確認。　燃料プールへの注水については、現状において、海水を注水（４号機：キリン、１～３号機：燃料ﾌﾟｰﾙ浄化系に消防ポンプ車ホースをつなぎ変えて対処）しているところ、順次淡水（坂下ダム水）に切り替えるとともに、仮設電動ポンプに切替注水する方針（１号機：大キリン、２号機：浄化系ライン　３号機：シマウマ　４号機：キリン）であることを確認。

＜実績＞

[炉心]

１号機：113L/min にて淡水注入中。炉圧、温度等ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰに変動なし。

２号機：消防Ｐ→M/D Ｐに切替済(18:31) 水位-1300mm 圧力安定 流量 200L/min 調整中

３号機：210L/min にて淡水注入中。炉圧、温度等ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰに変動なし。

共用ﾌﾟｰﾙ：39℃にて安定。５／６号：冷温停止中。

[プール]

３号機：シマウマは、12:34 放水開始（２H 遅れ）14:36 終了(約 100t 注入)

４号機：キリンは、16:55 放水開始（2H 遅れ）19:25 終了(ｻｰｼﾞ T 満水で 0.5H 切り上げ)

○ パージ船等による淡水供給計画について

パージ船 No1 は本日、No2 は、明日小名浜港に入港予定。別送のポンプ、タンク取り付け後、３１日に１Ｆへ曳航。接岸後、高低差３５ｍ、距離１．４Ｋｍのろ過水タンクへ淡水を圧送する計画であることを確認。

（水たまりの処理に関する確認状況）

○ たまり水排水のためのポンプ増設について

たまり水排水のため、１号機タービン建屋地下、１、２号機タービン建屋へのポンプ増設の計画を確認。

１号機 T/B：水抜きＰ１台→３台に増設(17:15)。19.5t/H で水抜き中

２号機 T/B：ﾎｯﾄｳｴﾙに抜き水の流し込みはかるも、満水を確認。対策再検討中。

３号機 T/B：CSD→S/P　ﾎｯﾄｳｴﾙ→S/P へ流し込み実施。満水確認。対策再検討中。

（その他）

○先の高線量被ばくに係る福島労働局からの指導票（3/26 付）に対する改善措置、回答案提示あり。

関係会社間での情報共有等のための「安全推進連絡会」定例会（毎月曜）、情報共有（朝、夕/日）を開催することで調整中。

○２号機 T/B 地下たまり水評価の誤りについて（20:45 東電プレス済）

－ヨウ素１３４の評価値（2.9E09）に誤り。原因は、データダブルカウントによる。

ヨウ素１３４については、本日中に再分析実施。全データを今晩中に再精査実施。

本店からは、「基本動作の確実な励行」「報連相の実施」による業務品質の向上を周知。

ＯＦＣ総括班（代　広報班）、ＥＲＣ総括班（代　広報班）　←　在１Ｆ　木原

３月２８日（月）分

（全体方針に関する確認状況）

○ 原子炉/使用済み燃料プールへの冷却準備状況について

◇ 原子炉への注水

D/G ２台追加投入に併せ、本日 3u も M/D P 化予定 (2u は昨日済) であることを確認。

◇プール

2u について本日、M/D P 設置、T/R 実施。淡水化を予定。

プール注水の基本方針（①水位維持（蒸発量分の補給）②水位確認の上、１回の注水で極力満水（あふれない程度）を目指す）を確認。

また、３号機を除き、ｽｷﾏｰﾚﾍﾞﾙ計による水位確認が可能であること。本日は、淡水化準備及び大キリン設置の準備（本日１PM 到着、設置、注水位置調整）にあて、注水予定がないことを確認。

水位の把握による適切な注水量管理により、汚染水増加に注意するよう本店指示。

＜実績＞

[炉心]

１号機：113L/min にて淡水注入中。炉圧等ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰに変化なし。

２号機：120L/min（M/D P）にて淡水注水中。炉圧等ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰに変化なし。

３号機：消防Ｐ→M/D Ｐに切替済 (20:30)。12m3/H にてｲﾝｻｰﾋﾞｽ (20:32)

共用ﾌﾟｰﾙ：39℃にて安定。５号機：68℃　６号機：22℃にて冷温停止中。

[プール]

注水実績なし。

本日 13:00 到着、据え付け予定の１号機用「大キリン」は、磐越道船引三春 IC を出たところで、クラッチトラブル。部品を中国にある車体からはずし、明日緊急空輸。３０日に小名浜コールセンターにて部品交換の後、３１日に１F 到着予定に計画変更。

2u の M/D P 化は、本日中の切替間に合わず。明日 AM T/R の上、PM より切替予定。

（水たまりの処理に関する確認状況）

○ T/B たまり水排水について

１号機：(立坑上部から) 水位-10cm

T/b→ﾎｯﾄｳｴﾙへ移送。P３台使用し 19.5t/H で水抜き中。T/B 残水量は、ざっと約 800t。

２号機：(立坑上部から) 水位-95cm　cst→S/P へ移送。

３号機：(立坑上部から) 水位-155cm cst→S/P へ移送。

①cst→S/P ②ﾎｯﾄｳｴﾙ→cst ③T/b→ﾎｯﾄｳｴﾙへ玉突きで移送を計画。

（その他）

○ 放射線核種分析に係る品質向上について（対処方針）

-評価手順、評価方法の文書化、共有、徹底

-評価結果の副班長による確認、班長への報告等、情報共有の再徹底

-分析・評価に係る人員体制の強化の実施

について確認。

○ ３０Km圏外避難住民の一時帰宅に係る２０Km圏内のモニタリングについて
モニタリングカー及び作業人員の手配作業に着手。
２０Km圏をメッシュ割して、すべてモニタリングの後、住民を誘導することは困難。
１つのメッシュをサーベイ後、そのメッシュ住民を誘導し、一つづつ潰していく手法で考えているところ。２Ｆとの連携を密に実施したい。（本店）
２Ｆでは、分析装置９台確保。作業員確保作業中。（２Ｆ）
現地対策本部との関係もあるので、連絡・連携を密にしてほしい（OFC）旨　確認。

○ 原安委助言に伴う海洋・地下水モニタリングについて
地下水については、サブドレンピット及び構内の井戸を調査対象に選定を計画。
海洋については、船のチャーターを計画中。

以上

ＯＦＣ総括班（代　広報班）、ＥＲＣ総括班（代　広報班）　←　在１Ｆ　木原

３月２９日（火）分

（全体方針に関する確認状況）

○ 原子炉/使用済み燃料プールへの冷却準備状況について

◇ 原子炉への注水

3u の M/D P 化済（昨日 20:30）残る 1u についても、M/D P 化済(本日 8:32) 133L/min にてｲﾝｻｰﾋﾞｽを確認。これにて、全台 M/D P 化完了。

◇プール

2u M/D P 化は、本日 10:00 切替で予定。

プール注水の基本方針（昨日既報）に加え、3 月･4 月のﾌﾟｰﾙ注水計画として、4 号(ｷﾘﾝ)は、４月は奇数日、3 号機(ｼﾏｳﾏ)は、4 月は偶数日、2 号(FPC ﾗｲﾝ)は、個別設定、１号(大ｷﾘﾝ)は、準備でき次第注水することとし、同一日に重なった場合は、3 号＞4 号＞2 号＞1 号の優先順位（3 号は、水位不明のため。他は、水位低下予測が大きい順）とすることを確認。

本日は、3 号(ｼﾏｳﾏ)での放水予定（14:00-16:00）。前回のｼﾏｳﾏ放水後に放射線量が下がったことから、注水量と放射線量低下との関係から注水量を決める重要なﾊﾟﾗﾒｰﾀｰとして、本日のｼﾏｳﾏ放水前後の放射線量についても測定実施を確認。

＜実績＞

[炉心]

１号機：8t/H にて淡水注入中。炉圧等ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰに変化なし。

２号機：7t/H にて淡水注水中。炉圧等ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰに変化なし。

３号機：7t/H にて淡水注水中。炉圧等ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰに変化なし。

共用ﾌﾟｰﾙ：35℃にて安定。５号機：非常時熱負荷ﾓｰﾄﾞに変更　６号機：ｼｬｯﾄﾀﾞｳﾝﾓｰﾄﾞに変更

[プール]

２号機：M/D P T/R（13:15 了）。　切替完了(16:30)し淡水化の上、注水(18:25 了)。

３号機(ｼﾏｳﾏ)については、消防 P の能力の問題から、放水時間を延長(18:18 了)。

（水たまりの処理に関する確認状況）

○ T/B たまり水排水について

1 号機については、トレンチの T/B 側接続部が高い位置にあり、T/B 地下の溜まり水と接触していない可能性が高く、この場合、トレンチ内の水は海水で独立している可能性が高いと考えられることから、海水と判明した場合には、排水を実施する予定。

2 号機、3 号機の溜まり水の移送は、現行計画では 1 週間以上係る見込みであることから、ﾗﾄﾞへの一時移送について検討。

＜立抗水位＞3/29 9AM 現在

1u：-140mm　2u：-1,040mm　3u：-1550mm　また作業として、土嚢積み等を実施済。

＜移送実績＞

2u、3u とも、cst → S/P へ約 30%移送。

（その他）

○ 4号機T/B 地下不明作業員の捜索
2次被ばくの可能性があり、実施が難しい状況。

○ ３０Km圏外避難住民の一時帰宅に係る２０Km圏内のモニタリングについて
明日より実施できるよう、指示を受けているところ。
自衛隊の２０Km圏内調査の実施結果に併せ、エリア、人、モノを本日中に決めたい。
ＮＩＳＡと調整の上、明日朝までに確定させる。

○ 原安委助言に伴う海洋・地下水モニタリングについて
モニタリングの実施に加え、漏れの有無、処理方法等につき、総理も関心を有しているところ。

○ 保安班人員強化について
[redacted]の支援により、近日中に５名×４班で24時間体制にて補強を予定。

以上

ＯＦＣ総括班（代　広報班）、ＥＲＣ総括班（代　広報班）　←　在１Ｆ　木原

３月３０日（水）分

（全体方針に関する確認状況）

○ 原子炉/使用済み燃料プールへの冷却準備状況について

◇ 原子炉への注水

引き続き継続の予定。

◇ プール

1u (大ｷﾘﾝ) ：本日ｸﾗｯﾁ修理の上、17 時以降に１F 到着予定。但し、途中道路の傷み激しいため、予定通り到着するか否かは微妙なところ。

2u (M/D P＋FPC ﾗｲﾝ) ：9AM より注水開始。35t を目安に注水を行う予定。

3u (ｼﾏｳﾏ) ：注水予定なし。

4u (ｷﾘﾝ) ：14-19 時で注水予定。144t の注水 or ｹﾞｰｼﾞ確認で満水になるまで注水。

M/D P 下流の 1. 3. 4u 放水機器への切替のためのヘッダー工事を、明日より実施予定。

＜実績＞

[炉心]

１号機：8t/H にて淡水注入中。炉圧 0. 24MPa　ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ安定

２号機：7t/H～9t/H にて淡水注水中。炉圧 0. 10MPa　ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ安定

３号機：7t/H にて淡水注水中。炉圧 0. 1MPa　ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ安定

[プール]

２号機：注水開始 (9:25) するも、M/D P 不調のため、消防 P に変更 (9:45)　ﾎｰｽからの漏洩発生によりﾗｲﾝの再確認実施 (12:45)、FPC ｽﾄﾚｰﾅ部分のつまりによる注水量低下が発生。明日、ｽﾄﾚｰﾅ除去により対処を予定。

４号機 (ｷﾘﾝ) ：14:00～放水開始。144t 注入確認にて放水終了 (18:33)

（水たまりの処理に関する確認状況）

○ T/B たまり水排水について

１号機は、水位の余裕がないことより、集中ﾗﾄﾞのﾍﾟﾚｯﾄ貯槽 (A) へ消防 P を使用して 150t 程度移送し、水位を 1m 程度確保する方向で実施予定。

＜立抗水位＞3/30 7AM 現在

1u：-140mm (/29 9AM 比 ±0)　2u：-1, 040mm (同比 ±0)　3u：-1550mm (同比 ±0)

＜移送実績＞

１号機：復水器満水のため、排水中止。停止から 17 時間で 37mm の水位増加を確認。S/P ﾀﾝｸへの移送を検討。

２号機及び３号機：復水貯蔵ﾀﾝｸより S/P S ﾀﾝｸへの移送を実施中。

（その他）

○ 線量管理について

昨日の EM 及び関係企業も含めた「安推連」にて、防止対策の周知徹底を確認

- 水をかぶることが予想される業務では、配管表面線量の確認、アノラックを必ず着用することをルール化

・ 工事監理員は、前日の作業環境（雰囲気線量、漏水、溜まり水有無）を正確に把握し、作業員に指示し、装備、作業時間等の注意喚起の実施
・ 作業実施前の作業環境（水の有無、圧力、通電状況）の確認、安全確保
・ 前日と作業環境が異なっている場合には、いったん立ち止まり、監理員に報告を行い、指示を受ける。必要に応じ、線量率再測定の実施を行う。

我が方からも、以下を強く指導。
・ 個々の作業員はもちろん、現場、本部の管理監督者による管理・指導・ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟを作業員以上の意識を持って行うこと。
・ 放医研への搬送、昨日の水かぶりと、前科２犯であり、３回目は許されないことを心して、作業にあたること。

事業者としては、作業の長期化、被ばく人員の増加（100mSv 越え＝19 名（東電 16 名、[redacted]3 名））をふまえ、個々人の被曝線量、今後想定される作業内容、期間を考慮した対応策を包括的に策定・監理することを表明。できあがり次第、我が方でも確認する旨表明済み。

○ 原安委助言に伴う海洋・地下水モニタリングについて
・ 本日、2u、3u のﾄﾚﾝﾁ立坑のｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ、明日、分析評価を実施予定であること。
・ 地下水は、現場確認とあわせ、各号機１ｻﾝﾌﾟﾙ以上採取し、明日、分析評価を実施予定であること

を確認。

○ 放射性物質の飛散防止対策
3/31～4/14 にかけて、散水車を使用し、作業員が散布する。
まずは、ﾃｽﾄｹｰｽとして共用ﾌﾟｰﾙ周りで実施した後、本格散布に移行したい。

○ 大ｷﾘﾝ、パージ船関係
大ｷﾘﾝは、本日 17 時に１F 構内着。明日据え付け実施ののち、放水開始予定（13:00）
ﾊﾟｰｼﾞ船 No1 は、小名浜港出航（17:05）。明朝 6:00 １F 着。着岸調査の後、午後着岸予定。

以上

ＯＦＣ総括班（代　広報班）、ＥＲＣ総括班（代　広報班）　←　在１Ｆ　木原

３月３１日（木）分

（全体方針に関する確認状況）

○ 原子炉/使用済み燃料プールへの冷却準備状況について

◇ 原子炉への注水

引き続き継続の予定。

◇ プール

1u (大ｷﾘﾝ) ：昨日入構の大ｷﾘﾝは、本日据付け後、13 時より 90t を目途に注水予定。

2u (M/D P＋FPC ﾗｲﾝ) ：本日ｽﾄﾚｰﾅｰの清掃を実施後、注水予定。

3u (ｼﾏｳﾏ) ：大ｷﾘﾝ放水終了 (16:00 予定) より、100t を目途に注水予定。

4u (ｷﾘﾝ) ：本日注水の予定なし。

＜実績＞

[炉心]

１号機：8t/H にて淡水注入中。ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ安定

２号機：9t/H にて淡水注水中。ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ安定

３号機：7t/H にて淡水注水中。ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ安定

[プール]

１号機 (大ｷﾘﾝ) ：90t 注入 (13:03～16:04)。ｺﾝﾄﾛｰﾗｰのﾊﾞｯﾃﾘ切れのため一時中断あり。

２号機：ｽﾄﾚｰﾅｰ清掃実施

３号機 (ｷﾘﾝ) ：約 100t 注入 (16:30～19:33)

（水たまりの処理に関する確認状況）

○ T/B たまり水排水について

１号機立坑溜まり水は、集中ﾗﾄﾞのﾍﾟﾚｯﾄ貯槽 (A) 9AM より移送予定。

１号機復水ﾀﾝｸ→S/P への移送は、０PM より開始予定

３号機復水ﾀﾝｸ→S/P への移送は、8:40AM に終了予定

＜立抗水位＞3/30 6PM 現在

1u：-140mm (/29 9AM 比 ±0)　2u：-1,040mm (同比 ±0)　3u：-1550mm (同比 ±0)

（その他）

○ 線量管理について

本日夜、福島県労働安全部より、一部作業員の線量計未着装に係る東電に対する緊急ヒアリングがあり（福島事務所対応）、概略、以下の内容で回答、了解を得た旨確認。

- 地震被害により、作業員全員の線量計が確保できない。
- 事前計算により雰囲気線量が低いと考えられる場所での作業については、全員ではなく代表者に線量計を持たせて管理を実施
- 必要個数については近々に確保できる見込みであり、調達完了に伴い、線量計係る管理・運用を見直し、原則作業員全員に持たせる運用とする。

我が方からは、適切に管理がなされているか否か、現行運用での管理状況と新運用に係る管理状況を確認するため、それぞれの管理データのエビデンスの提出を求め、後日確認することとした。

○ 放射性物質の飛散防止対策
本日は、天候が雨のため、中止。

○ ﾊﾟｰｼﾞ船関係
ﾊﾟｰｼﾞ船No1は、本日3:42PMに着岸した。

以上